



イマジン
ロータリー

RI 会長：ジェニファー・ジョーンズ

2620 地区ガバナー：浅原 諒蔵

会長：山城一哲 幹事：栗原 伸夫 会場監督：植山 和人

例会：毎週金曜日 19:00 - 20:00

グランドホテル浜松 〒432-8507 浜松市中区東伊場 1-3-1 Tel: 053-450-3003 Fax: 053-450-3006

E-Mail: hamamatsu-naka@ri2620.gr.jp

2023年6月9日（金） 曇 第1622回例会 週報 NO. 35

司 会：高橋聖子 会場監督補佐
点 鐘：山城一哲 会長
ロータリーソング「我らの生業」
「四つのテスト」唱和
川合 広高さん

ゲスト

曳馬塾事務局長 加藤 憲司様
浜松国際交流協会 松岡真理恵様

会長挨拶



本日は曳馬塾の加藤憲司様よりお話を頂きます。担当委員会の川井啓介さん、ゲストの紹介をお願い致します。また浜松国際交流協会の松岡様、宜しくお願い致します。

先週の例会は花のリレープロジェクト、雨の中、天浜線二俣本町駅に早朝よりお集まりいただき、ありがとうございました。当日は台風の影響もあって線状降水帯が発生し、清掃作業等中止となってしまいました。それでも天浜線の伊藤さんから、「このような悪天候の中でもこれだけのメンバーが集まり驚いた、さすが中ロータリーですね」と言っていたいただき、会長冥利で嬉しく思いました。今年度の野外例会は、9月の中田島清掃の時も悪天候で中止でした。私の不徳の致すところです。

静岡第5グループではこの事業を次年度も継続して行っています。ご参加を宜しくお願い致します。

今年度も余すところ、後2回の例会となりました。どうぞよろしくお願い致します。

幹事報告



- ・配布資料・・・ロータリーの友 請求書
- ・回覧・・・Rotary 誌、ガバナー月信、米山学友会会報、日台 RC 親善会議、シンガポール国際大会案内
- ・アフガニスタン退避者支援募金
- ・次週例会終了後、理事会です。
- ・次週は理事役員退任挨拶です。

浜松国際交流協会より

☆松岡真理恵様



一昨年8月タリバン政権がアフガニスタンを制圧してから、多くの方が国を逃れてきています。日本にも1200人ほどいると言われていますが、そのうち難民指定を

難民認定を受けているのは1割程度だけです。現在、浜松にもアフガニスタンの女性が1人滞在しています。日本のNGOで働いていた方の妹さんで、お姉さんの後を追って昨年5月日本に逃れてきました。日本語を勉強しながら生活の自立を目指していますが、現状では公的支援がないため、勉強の継続も危ぶまれています。ロータリーの皆様のサポートをお願いします。今日、本人はアルバイトで来られないため、ビデオでメッセージをお伝えします。

米山奨学金贈呈

☆グエン カオ キさん

今月も研究に忙しい毎日で、卒業論文も書き始めました。



誕生日お祝い

佐々木 雄二さん	4日
中村 将義さん	5日
原 英登さん	5日
山城 一哲さん	6日



スマイル

♪山城一哲さん、栗原伸夫さん

本日は曳馬塾の加藤憲司様にお越しいただきました。加藤様宜しくお願い致します。

今年度の例会が本日を含め残り3回となりました。引き続きお願いします。



♪川井啓介さん

本日はクラブ戦略委員会担当例会です。曳馬塾の加藤さんに卓話をお願いしました。



♪高橋聖子さん

今日は父の命日です。丸5年が経ちました。こうしてここにいるのも父のお陰だと思います。これからも頑張ります。



卓話「誰にもできる 身近な子供たちへの学習支援 ボランティアの実践方法」

ゲスト紹介：川井啓介さん

クラブの新しい奉仕活動としての一端として学習支援の奉仕活動をご紹介します。

加藤さんは磐田市生まれ。大学卒業して会社勤めの後、ご自身で会社を創業され、定年後は自治会長や民生委員を務めるなどされています。

☆加藤 憲司様



私たちの仲間は24名登録がいますが、実際に動いている講師は17~8名です。鬼頭先生にも昨年入っていただきました。

民生委員は高齢者を対象とすることが多いのですが、それだけでなく、民生児童委員として若い世代、恵まれない家庭の子どもたちをどう未来につなげるか考えました。そして塾に行けなくて勉強が遅れてしまう子どもたちを何とかしたいと学習塾を立ち上げることにしました。最初、曳馬地区の小6から中2の子供たちを対象に、資金は会社からの寄付でと計画を立てました。2016年のことです。ところが子どもたちを集めるのが難しく、中学の校長先生のアドバイスや、上島小学校の校長先生の協力も得て、6年生を対象に夏休みの1週間の塾を開くことから始めました。学校を会場に借りることで、保護者の信頼も得ることができたと思います。冬にも遊びの会を開きました。

こうして2017年4月のスタートにこぎつけました。テキストも無料で配布し、それを中心に教える内容を絞り、第1期は子どもが25名集まりました。順調な滑り出しだったと思います。

そうこうしているうちに曳馬中の校長先生から不登校の子にも勉強を教えてほしいという話が来ました。引き受けましたが、結果的にはあまり参加する子がいませんでした。

上島小は曳馬から遠いので子どもが通うのは大変です。そこで上島小の一角を借りて教室を開きました。2019年には市や県から表彰を受けました。

2020年からは市の委託事業として年額150万円ほどの支援を受けるようになりました。それまでは講師の方には無償で教えて貰って

いたのですが、1回1000円の交通費が出せるようになりました。とはいえ、テキストや余暇活動などの支出もあり、決して会計に余裕があるわけではありません。

昨年、市の「送迎加算事業」が通り、上島小のお子さんが通う際のタクシー代を出せるようになりました。上島小からは2名通っています。

今年は市の委託事業の中で「居場所作り加算事業」、「生活支援加算事業」が加わりました。「居場所作り」は学習にはハードルが高いけれど、居場所を作ることで徐々に勉強の環境に慣れていくようにするものです。「生活支援加算事業」は母子家庭や生活補助を受けている家庭に対して弁当や学用品を買うためのものです。しかし、これに該当するような子どもに対して使おうと思っても、保護者の方がOKを出さないで使うことができない状況です。親は子供の事を考えていないのではと思ってしまいます。

現在、曳馬地区エリアに加えて初生や城北のほうからも参加者が来ています。

今年8年目ですが、講師の平均年齢67歳。これからの継続を考えると若返りが欲しいと思います。市がいう「居場所作り」と「生活支援」事業の今後の在り方をどのような形で行うかが課題です。

出席報告

発表：原 英登 出席委員

会員数	43名
出席者数	21名
出席算定会員数	34名
出席率	61.76%

前々回出席者数
22名
修正出席率
70.59%

